

弘前藩日記目録 (十三)

弘前藩政史研究會編

延宝七年四月大

月番 盛岡 主膳

六庚午日 陽風

1. 御茶目の通り火の用心につき各頭人へ書付を渡す

2. 外記登城

3. 道中古河より飛脚到着

4. 松前兵庫御領分通過の時の注意についで

5. 旧冬出生の出雲守様御息女去月廿四日死去の由

七辛未日 陽風

1. 式日寄合

2. 久世出雲守様御姫様死去につき連枝方登城

3. 正阿弥儀右江門へ願の通り銀吹座申付く

八壬申日 陽

1. 江戸より飛脚、殿様去る廿四日江戸御着の由

又外記、次郎市、兵右江門登城 3. 下の切小田川の

山火につき申渡す 4. 松前兵庫御領通過の節の処置

半渡す 5. 烽火の差の穿鑿につき家中へ触れる

九癸酉日 晴申下刻雷雨

1. 進藤庄兵衛夜青森より登城 2. 鷹、鶴を持ち

御鷹師江戸へ 3. 十三より鰯ヶ沢への御登米百七

十夜積船一艘、材木船一艘赤正にて取極の由注進

4. 杉山八兵衛登城

十甲戌日 陽風

1. 御勘定之者代二人江戸へ 2. 北の丸御番不足で養

鬻のまき岡次助の勤めを許す

十一乙亥日 陽風

1. 外記登城 2. 西之浜並びに目屋野沢に山崩が出る

3. 直藤庄兵衛他三名御城米の件で鰯ヶ沢に罷敷

4. 小泊山今九日雷雨にて焼く

十二丙子日 陽風

1. 式日寄合 2. 御銀山御用のため大阪にて雇った西

十人及び御用拵足今日到着 3. 三世寺材木奉行、

黒石山手米請取役人管詞 4. 御山御用にて他国へ

渡わすものの御印について 5. 御銀山詰役人の願

を中小姓並とす

十三丁丑日 巳亥風雨

1. 小泊山火事へ雷火にて枯木二十四本焼失の由

2. 今九日飯詰山で土民三人雷火にあたる 3. 山崩が

西之浜遺百沢、目屋野沢村にて種物を喰うの由

4. 外記登城

十四戊寅日 陽

1. 鹿牛甚右江門他、昨日鱒ヶ米より帰る
2. 各所の御蔵入札の件
3. 江戸より飛脚、殿様首尾よく御目見の由
4. 御成付十三通を工藤次兵衛に相渡
5. 御老中土屋但馬守様今日二日病死の由

十三日卯日

1. 恒例の諸御礼、殿様御参勤、御目見酒の祝儀申上ぐ
2. 高倉五兵衛の湯治願許可

十六庚辰日 晴

1. 外記登城
2. 江戸へ飛脚
3. 昨夜茂奔町に投火
4. 榎市村小知行之者續一差上ぐ
5. 寺沢玄素侍家因事有之欠落の件

十七辛巳日 (天候なし)

1. 式日寄合
2. 大坂御城米舟廿御飛脚御用金子二十
3. 七人舟一人に付き一步宛、一戸又左江門他宛渡由
3. 成見清左江門他、江戸より帰る、又昌院様端午の御唯子并荷物持参之
4. 江戸より飛脚、今六日公方様より殿様鯛一折御拜領
5. 又昌院に御すまわけとして鯛一枚
6. 右の御祝儀のため外記他登城
7. 御宝蔵江御茶道具入置く際立合いの件
8. 天主台石屋修理の件
9. 勘定番頭の跡役につき申来る
10. 御歩行目付兼平左平次、良くのとめ金子三両を
11. 又昌院様御頂戴の鯛、外記より御笛守居頭まで二汁

五菜にて頂戴

十八壬午日 (天候なし)

1. 又昌院へ端午の御帷子二、内一蒙物御帯一筋御目録
  2. 昌院斗書添、使者打越常左江門上之
  2. 又昌院今朝特領の鯛頂戴さる
- 御残之鯛頂戴之寛

3. 詰座敷上之向にて外記他、二汁五菜
4. 見種岩崎
- 後、御礼登城
6. 江戸へ飛脚

7. 大尊寺次郎市江戸で無調法の儀有之

8. 杖多右江門他江戸詰のもの下着

9. 比内領にても山崩田畑の種物を喰荒す由

十九癸未日 晴

(記事なし)

廿甲申日 (天候なし)

1. 御用有之寄合所江主膳出座其外御役人罷出
2. 又昌院兩係役人誓詞
3. 赤田橋左江門、中召陸野に罷出

廿一乙酉日 (天候なし)

1. 例年のごとく松前へ御菓子を送る。
  2. 松前町奉行
  3. 工藤石兵衛方(右)
  3. 酒井左兵衛方へ進物、書状
  4. 御菓子昆布為調之如例并青森より御米三百俵可遣之
- 旨、庄兵衛江申産之

廿二丙戌日 (天候なし)

1. 式日寄合
2. 江戸人盡小知行組頭二名昨日下着

廿三丁亥日 (天候なし)

1. 今廿一日松前兵庫様御着 2. 兵庫様江前田名次右  
江門米二十俵大豆十俵薪三十駄

廿四戌子日 (天候なし)

1. 渡辺秋五石江門御足輕為舊古、組中召連野江罷出

2. 外記登城

廿五己丑日 (天候なし)

1. 外記登城 2. 御城米船祈禱之札差上付た奉行寺へ

銀三枚

廿六庚寅日 (天候なし)

1. 江戸より小知行 午の刻到着 2. 御城外大事交駈

主の時の対策

3. 伊五江門末申年御合力金之内、御取越罷成彦由頼之所、この儀にて候ハハ進可申可

4. 進藤庄兵江決罷在候前方より御用状書載候者無用

5. 本須御派役人病気の件 6. 御本城御宝蔵夜廻の件

右五ヶ条江戸より御下之

7. 亥刻横町伊勢次郎兵江家江投火有之由

廿七辛卯日 (天候なし)

1. 式日寄合 2. 文保田市郎左江門相中五匹に出

3. 御鷹之隼 雲雀の件 4. 早瀬野村より巢鷹四連

5. 御金貸借之面々寄合所江召寄上納すべき旨申渡す

6. 御町安田九郎兵江、百姓不儀あり斬罪いたした旨

届け出でたが、重科のものであるから許す

廿八壬辰日 (天候なし)

1. 諸御礼、 2. 中村春庵夫婦江戸登にき廻状を置わす

3. 役目の申し渡し 4. 上方より御所捕大栗到着  
西郭に植える旨申渡す 5. 抽密相は大鶴へ植え  
る旨郡奉行へ申渡す

廿九癸巳日 (天候なし)

(記事なし)

卅甲午日 (天候なし)

1. 城米御用のため大坂に役人二名派遣

2. 大坂町奉行江臘酌歌ニ、小知行者に持参せしむ

3. 早瀬野村から巢鷹三連兎鷓一居上納 4. 中村春

婦夫婦江戸へ発足 5. 掘越村伝蔵不届につぎ越山

6. 津軽野村の稲盗人同右 7. 同村の肝煎の処置

8. 又須田村空之丞法渡にそむき我まゝに商売いたす事

9. 伯文次郎右江門悪争あり 10. 右次郎右江門へ棟地

の音依估仕候由にて穿鑿の結果証処存し

右いづれも斬罪申付く

延宝七己未年五月小

一 二 未日 晴風

月番 盛岡 主膳

1. 恒例の御礼 2. 江戸へ飛脚

二 丙申日 晴風申刻雷

1. 式日寄合 2. 早ばつで農民難儀、百沢寺で祈禱

3. 在で山嶽由畑江入り種物喰い荒すので百沢寺に崩除

の札申付、その札を各地に立てたところ崩が出入し

なくなつた由、代官が申立て来る

4. 毛内有右江内昨晚より煙の尾があり登城せず  
三丁酉日 晴風

1. 外記登城 2. 北村誅右江内下着  
四戌戌日 晴風

1. 外記登城 2. 唐牛甚右江内より御山跡能有之由注  
誰あり  
三乙亥日 晴風

1. 10. 端午の節句の詣行事(十) 11. 吉田市左江内他  
二名、昨日より当春まで勤務良好であり褒美、御百  
麻上一具江戸より下され、これをもろう  
六庚子日 晴風

1. 2. 御耳於武者屯御番所寺社方御礼帳面記之、奉行御  
目付共二人出帝並御樽代請取役人罷出(三)  
3. 外記登城 4. 江戸物書三上十兵衛一人にて手廻り  
おね、花田伊兵衛登り申付之 5. 初胡瓜七、大饗  
村灣むぶりども上納 錢十文目遣す 右の瓜文昌院  
江上文

七甲丑日 晴風夜雨  
1. 式日寄合 2. 礎ヶ岡山奉行外崎五江内他申付誓詞  
3. 外ヶ岡内裏江山奉行小野源十郎申付 4. 文昌院御  
五戴番入田中源十郎申付誓詞 5. 黒土利部左江内  
御發地当分仕舞昨日罷歸 6. 北村武左江内他の湯  
治廻許可

八壬寅日 雨未刻風

1. 百沢寺に雨請申付た所、昨日より雨が降り、御供物  
銀子一枚遣す  
九癸卯日 晴

1. 別条燕之  
十甲辰日 晴風

1. 別条燕之  
十一乙巳日 未刻雨

1. 大行院并暉神祇堂雨請可申付旨寺社奉行江申渡之  
十二丙午日 晴  
1. 式日寄合 2. 上方より鐘鐘とりよせた所、鯉は重  
中で死に、鐘は二十一の内、十三は西郭御池に、八  
は新寺町池に放之 3. 護崎村志重次というもの山  
鴨、一居上之 御ほらびに銀二十文目遣之

十三丁未日 風雨  
1. 昨十二日大行院雨請の所、昨日より今日迄大雨  
十四戌申日 晴  
1. 詠右江内儀去四日より昨十三日迄十日之休息、今日  
登城 2. 御銀山江御百姓并日用之者五百人兼日差、  
越之処、御山繁昌につき人不足加人百人加らう申  
出あり

十五己酉日 風雨  
1. 恒例の御礼 2. 御鷹之鷲三、外記へ違す  
3. 御勸進之者二名、江戸より下着

十六庚戌日 晴 夜雨